

地域づくり表彰

特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ
(山口県山口市)

地域の絆でつくる

笑顔あふれる安心の故郷づくり

特定非営利活動法人
ほほえみの郷トイトイ
事務局長

たかた しんいちろう
高田 新一郎



1. 山口市の概要

山口市は、山口県の中央部に位置し、南は瀬戸内海に面し、北は島根県、萩市、東は防府市、周南市、西は宇部市、美祢市と隣接しています。東西約46km、南北約58kmの広がりを持ち、面積は約1,023.23km²と、県下では最も広い行政区域面積を有しています。

豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市となっており、また、大内氏時代や明治維新関連の歴史や文化資源が今に残されており、湯田温泉などを含めて、観光地としての魅力も備えています。

地勢は、北に中国山地を背負い、南に瀬戸内海を臨む南北に長い形状で、地形を大別すると、北部の山地、中部の盆地、南部の平地・干拓地からなり、北部及び市縁辺部の山地から端を発する榎野川及び佐波川が盆地、南部の臨海平野を経て瀬戸内海に流れ込み、阿武川が阿東地域を経て、萩市より日本海へ注いでいます。

市街地は盆地の平野部及び幹線道路沿いを中心に形成されており、市街地周辺や南部の平野部及び北部の山間部において農山村集落が散在しています。また、南部の干拓地を除く瀬戸内海沿岸に、漁村集落の形成が見られます。



国宝 瑠璃光寺五重塔（山口市香山町）

2. 活動開始の背景・経緯

山口市阿東地域では高齢化が進み、独居又は夫婦のみの高齢者世帯が増加する中、平成22年2月には地域内唯一のスーパーが撤退するなど、高齢者を中心に買い物環境への

不安が高まり、地福地域で安心して暮らし続けることができる機能の確保が地域課題として浮き彫りになりました。

地福地域づくり協議会を中心に地域住民主体の課題解決への取組がスタートし、平成23年12月には地域の将来構想「地福ほほえみの郷構想」による、地域拠点を核とした地域課題解決の仕組みづくりを推進するため「地福ほほえみの郷運営協議会」を設立しました。

地域拠点開設にあたっては、自治会を通じて各世帯に開設支援金を募るため、21の自治会ごとに住民説明会を開催し、地域の将来ビジョンの共有を行いました。これらの取組は、地域の関係団体と連携を図りながら、住民主体で行いました。

3. 活動の広がり

地域拠点の利用者や移動販売車での地域巡回の中で、地域ニーズのくみとり活動を展開しており、地域女性による惣菜加工グループの立ち上げや、産直野菜の出荷の仕組みづくり等に繋がっています。さらに、地域食堂の開設による子供と高齢者の交流や農業体験の実施など、地域住民が主体的にかかわることのできる地域の仕組みづくりに取り組んでいます。



産直野菜の出荷コーナー

地域拠点を核にした多様な主体との連携として、平成28年から2年間、行政との協働によりICTを活用したまちづくり実証事業に取組、人口減少、高齢化の進む中山間地域でのICT活用によるまちづくりの有効性

について検証を行いました。さらに、平成30年には公益財団法人の助成を受け、新たな担い手となる人材育成の取組を実施したほか、今年度より一般財団法人基金助成による「地域にあった移動の仕組みづくり」にも取り組んでいます。



地域の担い手セミナー

4. 継続性

平成24年4月にスタートした地域拠点「ほほえみの郷トイトイ」の運営も8年目を迎えました。この間、人口減少とともに失われていく地域の機能を維持するため、地域課題をコミュニティビジネスの手法を用いて解決しながら、持続可能な地域運営を目指してきました。地域拠点を核に地域がつながることで新たな可能性を見出しています。



地域拠点「ほほえみの郷トイトイ」

取組の主な財源は、事業収入であるため、地域住民がサービスを利用することで地域づくりに参画できるしくみを構築しています。

地域住民が笑顔で安心して暮らし続けるために必要なサービスを事業として展開する中で、単独では収益ベースにのらない事業については、複数かけ合わせることで持続するための収益の確保を可能にしています。

このように、循環型の地域経済を

構築することで、持続可能な地域づくりを目指しています。



介護予防の取り組み

5. 地域資源の活用

地元食材の活用として、地元女性による惣菜加工グループ「トイトイ工房」では、地元の新鮮な野菜を利用した手作り惣菜やお弁当を地域に提供しています。農業の盛んな地域の特性を生かした、安全で美味しい惣菜は、地域内だけでなく地域外からの注文も増えています。

今後の更なる取組として、新たなメニュー開発にも力をいれ、地域の食を守りたいと考えています。



トイトイ工房の様子

また、地域の伝統を次世代へつなぐ取組として、国の重要無形民俗文化財に指定されている「地福のトイトイ」を地域で守りつないでいくために、トイトイのわら馬づくりを地域の子供たちに継承する取組のほか、馬をモチーフにしたストラップなどをつくり、SLやまぐち号で地福を訪れる観光客にむけたPRに取り組んでいます。



伝統行事「地福のトイトイ」

このように、地域の誇りである伝統行事を通じて、地域住民が心をひとつに地域づくりに取組意識付けを行っています。

6. 創意工夫

地域拠点「ほほえみの郷トイトイ」では、地域の人と人をつなぐことで地域コミュニティを再構築し、課題解決に取り組んでいます。地域に点在する高齢者に対して、移動販売車による買い物支援を行うとともに、地域内マーケティングにより、効果的に課題に対するアプローチを行っています。ほほえみの郷トイトイの移動販売事業は単なる買い物支援ではなく、地域の声を聴く重要な役割を果たしています。



移動販売車の様子

また、地域住民が輝くための地域マネジメントとして、取組の主体である地域住民の誰もが、地域で役割を持ちいきいきと輝くことが地域づくりにつながると考えています。例えば地域食堂では、高齢者と子どもたちがお互いに笑顔になるよう関わりを持つことで、地域での場づくりにつながっています。地域住民がお互いに支え合うことでコミュニティの力による課題解決を実現しています。



地域食堂の様子

7. 成果

平成24年のほほえみの郷トイトイ開設により、年々地域住民のつながりは広がり、地域に笑顔が増え続けています。これは、地域拠点「ほほえみの郷トイトイ」が地域のよりどころとして認知され、その取組がひとつずつ課題解決のsmallサクセスを積み上げてきたことで、地域住民が地域の未来に希望を見出してきた成果だと考えています。今後さらに人口減少高齢化が進む中、不安

を安心に変える取組を進めていきたいと考えています。



地域に広がる笑顔

また、人口減少高齢化が進む阿東地福地域ではありますが、「地域拠点ほほえみの郷トイトイ」を核とした新たな地域のしくみづくりに取組できたことで、子どもたちが故郷に誇りを持ち、若者が住みたいと思える地域に変わりつつあります。地方での新たな仕事づくりを通じた田園回帰の流れの中、選ばれる地域になるよう、今後、さらなる取組を進めていきたいと考えています。



空き家活用の取組

8. 課題と展望

今後さらに人口減少高齢化が進む中で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる地域のしくみづくりが、益々重要となることが予想されます。

これまでの取組として、地域のよりどころとなる拠点を整備し、地域ニーズを丁寧に集約することで、地域内に新たなビジネスを生み出し課題解決の実践を行ってきましたが、将来にわたって取組を持続させるために、収益性を高め雇用を確保しながら、地域の担い手育成を進めていきたいと考えています。

また、行政などの公的機関だけでなく、民間企業との連携・協働を進め、これからの時代に対応した地域づくりを行うことで、地域住民一人一人が輝き、地域の未来に希望を持てるよう取組を進めていきたいと考えています。